

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道防災課
担当課長名：下保 修

事業名	地域高規格道路 一般国道9号 出雲バイパス	事業区分	一般国道 (2次改築)	事業主体	中国地方整備局
起終点	自：島根県簸川郡斐川町大字富村 至：島根県出雲市芦渡町	延長	8.7 km		
事業概要					
<p>一般国道9号は、京都市から下関市に至る延長約670kmの主要な幹線道路であり、沿線地域の産業・社会活動や住民の生活に大きな役割を果たす重要な路線である。</p> <p>出雲バイパスは、国道9号の朝夕ピーク時における交通渋滞の緩和、安全で円滑な交通の確保、医療機関へのアクセス向上、宍道湖中海圏域の経済交流の拡大を目的とした延長8.7kmの4車線道路である。</p>					
S49年度事業化	S55年度都市計画決定 (S57, H13年度変更)	H5年度用地着手	H7年度工事着手		
全体事業費	970億円	事業進捗率	63%	供用済延長	2.8km
計画交通量	22,600~31,600 台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 5.4	総費用 (残事業)/ (事業全体) 276 / 967億円 (事業費: 233/924億円 維持管理費: 43/43億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 1,496 / 1,496億円 (走行時間短縮便益: 1,417/1,417億円 走行経費減少便益: 53/ 53億円 交通事故減少便益: 25/ 25億円)	基準年	平成19年
感度分析の結果 残事業についての感度分析を実施					
<p>交通量変動 : B/C=5.9 (交通量+10%) B/C=5.0 (交通量-10%)</p> <p>事業費変動 : B/C=5.0 (事業費+10%) B/C=5.9 (事業費-10%)</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（現道等の年間渋滞損失時間が削減される） 安全で安心できる暮らしの確保（県立中央病院までの救急搬送時間短縮） <p style="text-align: right;">他12項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見					
出雲市、斐川町などの複数の団体から構成する国道9号出雲バイパス建設促進期成同盟会などから当該バイパスの早期整備要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
出雲バイパス周辺地域には、三次医療施設の県立中央病院の移転、大規模小売店の出店をはじめ、住宅や事業所立地も進んでおり、出雲市の市街地ゾーンとして新たな街づくりが展開されている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
平成18年度末時点で用地買収については約95%が完了。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
平成15年度3月末までにバイパスの一部（2.8km）を供用済。平成19年度末には、暫定2車線でバイパス部の供用を目指し事業を進めているところである。					
施設の構造や工法の変更等					
新工法を設計時に導入（鋼管ソイルセメント杭を使用）すること等によりコスト削減を行っている。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。